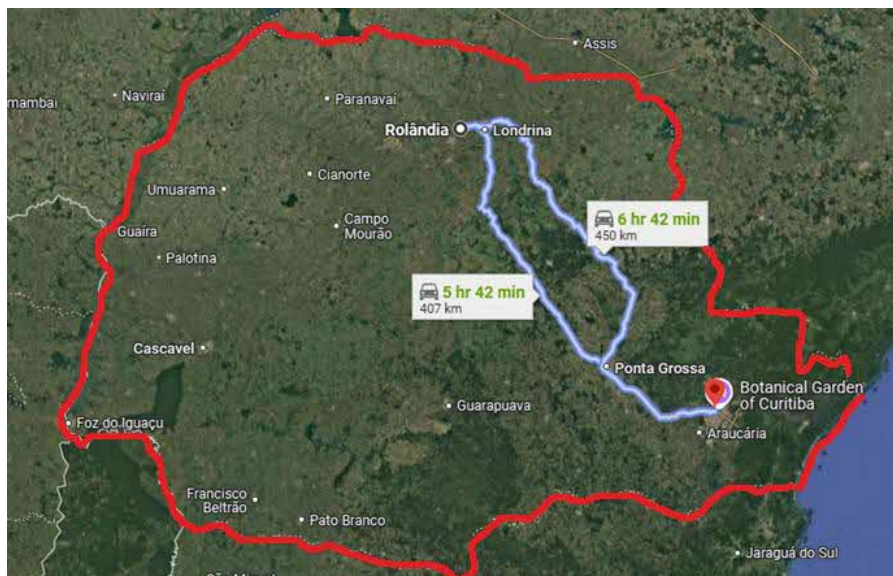


ブラジル通信第7回 ～おめでとう！初勝利！！～

第7回の今回は、11月に参加したパラナ州野球大会について、書いていきたいと思います。

11月2日と3日にパラナ州のクリチバ市で行われた大会に参加してきました。私がいる町からはバスで7時間ほどの距離です。金曜日のお昼に出発して、クリチバ市のスポーツクラブの施設に夜に到着してそのまま宿泊。ブラジルではこのように、大会に合わせて前日に出発し、試合会場に宿泊という形が一般的です。試合も土日の2日間開催です。今回参加した大会は11、12歳のカテゴリーでパラナ州の7チームが参加した大会でした。この7チームが4チームのAグループと3チームのBグループに分かれ、そのグループ内で競うという形で大会が行われました。このカテゴリーではここパラナ州にブラジル国内でも強豪のチームが複数存在しており、私たちのチームはまだチームとして始まったばかりであることを考慮してもらい、強豪チームのみのAグループとは別に、それらの強豪チームのBチームが入るBグループに入れてもらい試合を行いました。



← 私の住む町
(Rolândia) から
州都のクリチバ
市 (Curitiba) まで
の道のり。

私が教えるチームには3つのカテゴリーがあるのですが、唯一この11、12歳のカテゴリーだけが練習試合を含めて試合での勝利をまだ挙げる事ができていませんでした(ブラジルの少年野球のカテゴリーについてはブラジル通信第6回で紹介しておりますのでまだの方はぜひ読んでみてください)。昨年、このカテゴリーの試合での指揮は私が任されており、個人的に思い入れの強いカ

テゴリーです。何としてでも1勝させてあげたいと思い、先発メンバー、打順、守備位置など何通りも考えたりして試合前の1週間は過ごしました。これらを考える時に、私の頭を悩ませたのが「投手の1日の球数制限が60球」、「捕手で出場した選手は投手としてその日の試合には出場できない。逆も同様。」というルールでした。チームにはストライクをコンスタントに投げられる子は3人、その内1人は捕手。1試合だけなら何とかかなりそうなものの、2試合目のことを考えると投手が居なくなる可能性があるため、ストライクが入る子を1試合目と2試合目に分けるべきか、それとも1勝を獲りに行くために2人とも1試合につき込むかなど、かなり考えました。

考えた結果、やはり目の前の1試合を全力で勝ちに行くことに決めました。そして、試合開始。初回の攻撃で1点先制するも、その裏に3点とられて逆転を許す展開。しかし、3回に満塁ホームランが飛び出し、さらに追加点を入れ、6-3で迎えた最終回の守備。簡単に2アウトを捕った後、そこから2者連続四球、安打、守備のエラー等で2点を失い、尚も2アウトランナー2、3塁... サヨナラ負けが頭をよぎる中、子どもたちが3つ目のアウトを捕った瞬間はこのブラジル生活の中でも1番嬉しかったです。抱き合って喜ぶ彼らの姿は一生忘れないだろうなと思います。打ってほしい打者が得点して、その打ってほしい打者にチャンスでまわした子どもたち、初回到失点したものの、中盤を0で抑えた投手、野手陣。全員でつかみ取った勝利で非常に嬉しかったです。

残念ながら、2試合目は、コールドゲームを喫し、2日目に予定されていた試合も雨で中止に。それでも、まずは1勝できたことは彼らにとって大きな自信になったことと思います。

ぜひ、これからも練習を続けて、強豪チームを倒してほしいなと思います！

